



2012年7月10日

## 糖尿病啓発イベント 「ヘモグロビン・エー・ワン・シー (HbA1c) 認知向上運動 2012」 東京と徳島で開催

サノフィ・アベンティス株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:ジェズ・モールディング、以下「サノフィ・アベンティス」)は、社団法人日本糖尿病協会(理事長:清野 裕、所在地:東京都千代田区、以下「日本糖尿病協会」)と共催で、6月2日(土)に東京都内にて、また7月8日(日)に徳島にて、糖尿病の基礎知識や糖尿病の予防と治療において大切な指標である HbA1c についての正しい知識と理解を深めていただくことを目的とした一般参加型の糖尿病啓発イベント「ヘモグロビン・エー・ワン・シー (HbA1c) 認知向上運動 2012」を開催いたしました。

日本糖尿病協会とサノフィ・アベンティスは、糖尿病予防や治療成績の向上には、糖尿病や HbA1c についての正しい知識を持つことが大切であるという認識のもと、2006年より国内主要都市にて「ヘモグロビン・エー・ワン・シー (HbA1c) 認知向上運動」を開催しています。特に本年4月1日より日本国内において国際標準値に合わせた HbA1c の表記に変更となったことから、今年のイベントでは、糖尿病患者さんやそのご家族の方々に対して、更なる認知向上への働きかけが行われました。

「ヘモグロビン・エー・ワン・シー (HbA1c) 認知向上運動 2012」では、東京会場、徳島会場ともに来場者を対象としたアンケート調査を行いました(回答数:501、男性:39.0%、女性:61.0%)。その回答者のなかで HbA1c がうまくコントロール出来ていない患者さんは、東京で 15.8%、徳島県で 38.7%という結果になりました。また HbA1c に関する認知度について、糖尿病および糖尿病予備群のグループにおいては両会場とも 95%程度と高かったものの、「患者ではない・わからない」というグループにおいては 東京 48.0%、徳島 69.4%と、徳島の方が東京より 21.4%ポイント認知度が高いという結果になりました。

さらに、「HbA1c が国際標準化に伴い、表記が変更になったことを知っていたか」という質問に対して「知っていた」と回答した人は、糖尿病患者および予備群のグループで両会場ともに約 60%、それ以外の方々については東京で 24.3%、徳島で 27.6%と、表記変更に関する認知度は未だに低いことが判明しました。それにより HbA1c の表記法が変更になったことを知らないために生じる、病状の誤解や治療に対するモチベーション低下を回避するために、更なる啓発活動が必要とされていることが明らかになりました。

しかしながらイベント参加後の感想として「糖尿病に関する基礎知識や HbA1c の重要性についてさらに理解を深めることができた」と回答した人が両会場ともに 90%を超え(東京:92.6%、徳島:95.7%)、本イベント開催の重要性を再認識することができました。

糖尿病の早期発見・早期治療のためには、定期的に検診を受け HbA1c の値を患者さん自身が認識することが重要です。糖尿病と診断された患者さんは食事療法や運動療法、また経口血糖降下剤やインスリンなどを用いた適切な治療により厳格な血糖コントロールを行い、合併症の発症予防や進展が抑制できるといわれています。サノフィ・アベンティスは、今後も、糖尿病の予防と治療の大切さを訴求してまいります。

以上

<東京会場の様子>



<徳島会場の様子>



## 日本糖尿病協会について

日本糖尿病協会は、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、患者さん及びその家族への療養支援、国民の糖尿病の予防と健康増進への調査研究を行うことを目的に、1961年(昭和36年)に結成されました。その後、1987年(昭和62年)に社団法人日本糖尿病協会となり、現在は、患者さんとその家族、糖尿病診療に関わる医療スタッフ、一般市民など、105,000人の会員で構成されています。今回のHbA1c認知向上運動のような大規模イベントから、都道府県支部における糖尿病友の会(全国に約1,650か所)等の草の根レベルの療養支援まで、様々な活動を展開しています。

<http://www.nittokyo.or.jp/>

<http://www.facebook.com/nittokyo>

## サノフィ・アベンティスの糖尿病領域への取り組み

サノフィ・アベンティスは、日本の糖尿病領域において経口血糖降下剤とインスリン製剤を提供し、各治療段階における糖尿病患者さんに貢献する製薬企業です。経口血糖降下薬の主力製品として、2型糖尿病に使用されるスルホニルウレア系経口血糖降下薬(SU薬)「アマリール®」(一般名:グリメピリド)及び選択的DPP-4阻害薬「エクタア®」(一般名:ビルダグリプチン)と、1型および2型糖尿病を対象とする持効型溶解インスリンアナログ製剤の「ラントラス®」(一般名:インスリングラルギン[遺伝子組換え])及び超速効型インスリンアナログ製剤「アピドラ®」(一般名:インスリングルリジン[遺伝子組換え])を提供しています。サノフィ・アベンティスは2008年より、日本糖尿病協会の発展に寄与し、顕著な功績をあげた日本糖尿病協会の会員およびその関係者を表彰する、日本糖尿病協会「サノフィ・アベンティス賞」を後援しています。

また糖尿病の患者さんや一般の方に向けて、糖尿病の情報ウェブサイト「糖尿病がよくわかるDM Town」([www.dm-town.com](http://www.dm-town.com))、「よくわかるインスリン」([www.dm-town.com/insulin/](http://www.dm-town.com/insulin/))を開設して情報提供を行っています。日本糖尿病協会とサノフィ・アベンティスが2006年より毎年実施しているHbA1c認知向上運動のイベントについても“DM-TOWN”([www.dm-town.com/hba1c/index2.html](http://www.dm-town.com/hba1c/index2.html))においてご覧いただけます。

\*エクタア®(一般名:ビルダグリプチン)はノバルティスファーマ(株)と販売提携を行っています。

## サノフィ・アベンティス株式会社について

サノフィ・アベンティスは、約 3,000 人の従業員を擁し、「日本の健康と笑顔に貢献し、最も信頼されるヘルスケアリーダーになる」をビジョンに、医療用医薬品の開発・製造・販売を行っています。詳細は、[www.sanofi-aventis.co.jp](http://www.sanofi-aventis.co.jp) をご参照ください。サノフィ・アベンティスは、サノフィ・グループの一員です。